

マガンもシナイモツゴも安心 共に生きる米づくり



自：自然共生
資：資源循環
低：低炭素

キーワード

地方創生／官民連携／環境配慮型農業／
水辺の保全・再生／食／ブランド化／
健康・美容

フィールド

東北
(宮城県)

里

実施体制

大崎市／伸筋ふゆみずたんぼ生産組合／
(株)たじり穂波公社(販売業)、JAみどりの／
かしまだいシナイモツゴ郷の米づくり手の会
／NPO法人シナイモツゴ郷の会



アクションの目的

水辺の生物多様性を保全するため、広域連携によってトキをはじめとする大型鳥類と共生する流域をつくること。

アクションの背景

ニホンに飛来するマガンの8割が大崎市のごく一部の湿地に集中して越冬する傾向が強まってきていた。1998年頃から、マガンのねぐらを分散させるべく、周辺の水田で冬期湛水を実施。当初は農家個人単位の取組であったが、2003年から修羅区単位での取組が行われている。1993年、外来種や湖沼の干拓等の影響で長らく県内で採取記録の無かったシナイモツゴが約60年ぶりに市内のため池で発見され、種を守るべく、2002年にシナイモツゴ郷の会が結成された。

アクションの内容

【ふゆみずたんぼ米】

12月～2月の間、水田の湛水水深5cmを保持し、農薬や化学肥料を使用せず栽培したお米を「ふゆみずたんぼ米」として販売。

【シナイモツゴ郷の米】

ため池にシナイモツゴが生息できるよう、池干しやブラックバスの駆除等の管理を行い、その水を使って、また農薬や化学肥料の使用を削減して作られたお米を「シナイモツゴ郷の米」として販売。

【ブランド化】

ふゆみずたんぼ米は、生産農家同市で湛水状況等の確認を実施。
シナイモツゴ郷の米は、第三者機関であるシナイモツゴ郷の会が認証を実施。

【地域への愛着・誇りの醸成】

シナイモツゴ郷の会が実施する保全活動には地元の子どもが参加し、地域への愛着を育むことにつなげている。

アクションのポイント

- ◎農家とNPOや研究者、JA、行政など多様な主体の連携のもとに取組が行われている。
- ◎環境保全と地域経済の活性化という2つの課題を一体のものとして捉え、同時に解決している。
- ◎安全安心なお米というだけでなく、ガンやモツゴといった生きものと共生する農法や作業を農家自身がその意義や思いを伝えることで、より消費者の共感を得て、慣行栽培米よりも高い単価で販売されている。

アクションの効果

- 地元の飲食店で海藻農法で栽培した農産物を採用する店が増えている。
- 冬期湛水水田に飛来したコハクチョウが県外から多数のカメラマン等呼び、観光に貢献している。
- 生物多様性の向上に資する農業によるお米づくりや、水田等をフィールドに地域住民等により開催される体験イベント等を通じて、生物多様性の大切さの認識が広まりつつあり、地域への愛着や誇りの醸成にもつながっている。